



人口減少が続く中で経済成長を維持するには、生産性の向上が不可欠です。現在は人工知能をはじめ、自動認識や自動制御、遠隔計測などを行う「IoT (Internet of Things)」などの技術が、すごい勢いで進歩しています。私の関わる建設業でも、ドローンを飛ばして精密な3次元測量を行い、そのデータを機械にインプットすることで、自動的にミリ単位の正確な作業ができるようになってきています。

高向前会頭が北海道新幹線の誘致に對して大変に尽力されて、開業後は函館の観光客数が増え、伸びが伸びています。札幌まで延伸すればさらに経済効果が増えることは確かですから、積極的に進めていきたい。新幹線札幌延伸後の新千歳空港乗り入れも実現させたいです。札幌から先は特急並みの

——選任後の記者会見では、2030年度の北海道新幹線の札幌延伸や2026年札幌五輪の誘致に全力を上げる姿勢を表明されました。

——北海道内における札幌一極集中の人口格差問題について、どうお考えですか。

交通体系のことも含めて、北海道がバランスよく発展できる施策を考えていかないとダメですね。札幌は高齢者の流入が多いことに比べて、20代の若い人たちは道外へ流出してしまうという問題を抱えています。流出を防ぐことも大切ですが、Uターン、Jターンなどの人々を迎え入れる、あるいは積極的に取りに行く施策も必要になってくると考えています。

——札幌から先は特急並みのスピードでもいいのか、新幹線のあの車両で新千歳空港に乗り入れることができればと思っています。26年冬季五輪・パラリンピックについては札幌招致期成会を組織して、商工会議所が事務局となって札幌への誘致活動を始めました。特に2月19日からの冬季アジア札幌大会、3月には障がい者スキーのワールドカップが札幌で開催されます。両大会を成功させて、世界に札幌をアピールしていくことが大変重要ですね。我々も全力で応援していきたいですね。札幌の街は、1972年の冬季オリンピックをきっかけに大きく変わりました。その意味で、2026年のオリンピック開催は、21世紀型の人に優しいまちづくりを進められる大きなチャンスだと思っています。オリンピックが開催されるといふことになれば、新幹線もおそらくさらに早期開業することになるでしょう。そうすると、札幌の街は駅前再開発も含め、再び大きな発展を遂げるはずですね。オリンピック誘致はぜひ成功させたいです。

——札幌エリアから全道に経済効果を広く波及させるためには、交通インフラの整備は不可欠ですね。

JR北海道の事業見直し



2017年1月3日朝刊 札幌本社版 全15段



——生産性の向上についても頻繁に言及されています。

業における蓄積が少ないと言われていますが、これについても振興支援をしていきたいと考えています。

こうした技術は今後あらゆる業種で取り入れられていくと思うので、商工会議所として導入支援をできればと考えています。

——北海道内における札幌一極集中の人口格差問題について、どうお考えですか。

交通体系のことも含めて、北海道がバランスよく発展できる施策を考えていかないとダメですね。札幌は高齢者の流入が多いことに比べて、20代の若い人たちは道外へ流出してしまうという問題を抱えています。流出を防ぐことも大切ですが、Uターン、Jターンなどの人々を迎え入れる、あるいは積極的に取りに行く施策も必要になってくると考えています。

——選任後の記者会見では、2030年度の北海道新幹線の札幌延伸や2026年札幌五輪の誘致に全力を上げる姿勢を表明されました。

——北海道内における札幌一極集中の人口格差問題について、どうお考えですか。

交通体系のことも含めて、北海道がバランスよく発展できる施策を考えていかないとダメですね。札幌は高齢者の流入が多いことに比べて、20代の若い人たちは道外へ流出してしまうという問題を抱えています。流出を防ぐことも大切ですが、Uターン、Jターンなどの人々を迎え入れる、あるいは積極的に取りに行く施策も必要になってくると考えています。

——選任後の記者会見では、2030年度の北海道新幹線の札幌延伸や2026年札幌五輪の誘致に全力を上げる姿勢を表明されました。

——北海道内における札幌一極集中の人口格差問題について、どうお考えですか。

交通体系のことも含めて、北海道がバランスよく発展できる施策を考えていかないとダメですね。札幌は高齢者の流入が多いことに比べて、20代の若い人たちは道外へ流出してしまうという問題を抱えています。流出を防ぐことも大切ですが、Uターン、Jターンなどの人々を迎え入れる、あるいは積極的に取りに行く施策も必要になってくると考えています。

昨年、新体制が発足した
札幌商工会議所/北海道商工会議所連合会。
「2030年度の北海道新幹線の札幌延伸や、
2026年冬季五輪・パラリンピックの札幌への誘致に
力を入れたい」と話す新会頭の岩田圭剛氏に、
北海道経済を牽引する札幌商工会議所の
これからの役割についてお話しいただいた。

——北海道経済は「緩やかな回復傾向にある」と言われていますが、中長期的に見れば「人口減少」による「労働力のダウン」と「市場の縮小」が急速に進んでいる状況です。そのような中で、北海道を元気にする方策についてどのようにお考えですか。

北海道は他地域に先駆けて人口減少が進んでいますし、札幌もいよいよ減少時代に入る転換期であると認識しています。その中で、北海道の強みである「食と観光」については、このまま発展させたい。また、北海道はものづくり産

PROFILE

- 職歴
- 平成10年 6月 岩田建設(株)代表取締役社長
 - 平成16年 4月 (株)ICホールディングス代表取締役社長
 - 平成19年 4月 岩田地崎建設(株)代表取締役社長
- 公職歴
- 平成16年 11月 札幌商工会議所 副会頭
 - 平成28年 11月 札幌商工会議所 会頭
 - 北海道商工会議所連合会 会頭

——昨年11月1日の札幌商工会議所・臨時議員総会にて会頭に選出されました。また、北海道商工会議所連合会の会頭にも選出されています。抱負や意気込みなどをお聞かせください。

高向前会頭が12年に渡って北海道経済を牽引する中で培ってきた実績や北海道への想いを実現できるような、微力ながら努力していきたいと思っています。おかげさまで北海道建設業協会や日本青年会議所などで長く活動させてもらって、周りの皆さまには大変良くしていただきました。今後も会員企業や会議所の職員の方々と協力しながら、活動を展開していきたいと思っています。